

簡易的な防鳥ネットの設置方法

■用意するもの

- ・防鳥ネット・ハウスバンド（ビニールハウスで使用するフィルム押さえ。農業資材）
※ネットは飼養衛生管理基準に適合する2センチ目合いのものを使用する。
- ・支柱（園芸用の支柱等）・ひも（PPロープ等）・はさみ・脚立・針金・ねじ・ペンチ・インパクトドライバー等、必要に応じて準備する。

■安全上の留意点等

・適切な服装で作業する

- ・衛生管理区域専用の服や靴を着用する。服や靴を農場外から持ち込む場合は、適切に洗浄・消毒を実施したものを着用する。
- ・脚立を使って作業する場合、服装面でも安全に配慮が必要。脚立にひっかからないような靴（長靴等はかかとがあるのでステップに引っかかりやすい。地下足袋等が望ましい）・服（ボタン等、ひっかかるものがない服が望ましい）、ヘルメットを着用する。
- ・インパクトドライバーを使う場合は、目をゴーグル等で保護する。

・脚立の取り扱い

- ・天板の上に立たない（足をかけるのはその下の段までにする）。開き止めが止まっていない状態で使用しない。立てかけて使用するときには向きに注意（畳んだ時、内側になる面を下にして立てかける）。
- ・2人一組で作業し、脚立に乗らない人が脚立の支持や道具の受け渡し等の補助を行うとよい。



■作業の前に

- 防鳥ネット・ハウスバンドの特性を理解しておく。
 - ネットは、設置した時左右幅が縮んでしまう（真四角には広がらず、左右がかなりくびれた形になる。目合いが細かいほど顕著）。また、上下にひもを通す輪がついているので、縦横を逆転させて使うことが難しい。購入・設置するときは縦横のサイズに注意する。
 - ネットの丈が明らかに長く、1枚を2枚に横に切って使う場合には、横に展開する前にまとめて切るとよい。1枚を2枚に縦に切って使う場合は、まっすぐに切る必要がある。縦に切るほうが大変なので、先に横に切る。
 - ハウスバンドは2回結ぶことで締まり、ほどけにくい。
- 設置場所の構造と日々の管理での動線を踏まえて、設置方法を決める
 - ネットを左右両側から開閉するのか、片方からのみ開閉するのか、開閉する必要がなく、ネットを固定してよいのか。重機等はどのように進入するのか。
 - ネットに通したハウスバンド（カーテンレールの役割を果たす）を結び付ける場所を決める（写真★印、内側から取り付けている）。既存の柱等に結び付けるのか、ネジを打ち、そこに結びつけるのか。ハウスバンドはカーテンレールの役割を果たすので、たるみなく水平に張り、なおかつ、構造物から少し浮いている（カーテンであるネットが滑る隙間がある）必要がある。なお、長い距離を張るとたるみがちになるので、★の位置は開口部より少し上にすると上部に隙間ができない。
 - ネットは目視しづらいので、重機や人が誤って進入しないようにネットの手前に注意書きを設置することが望ましい。



■設置の手順

1. ネットを準備する

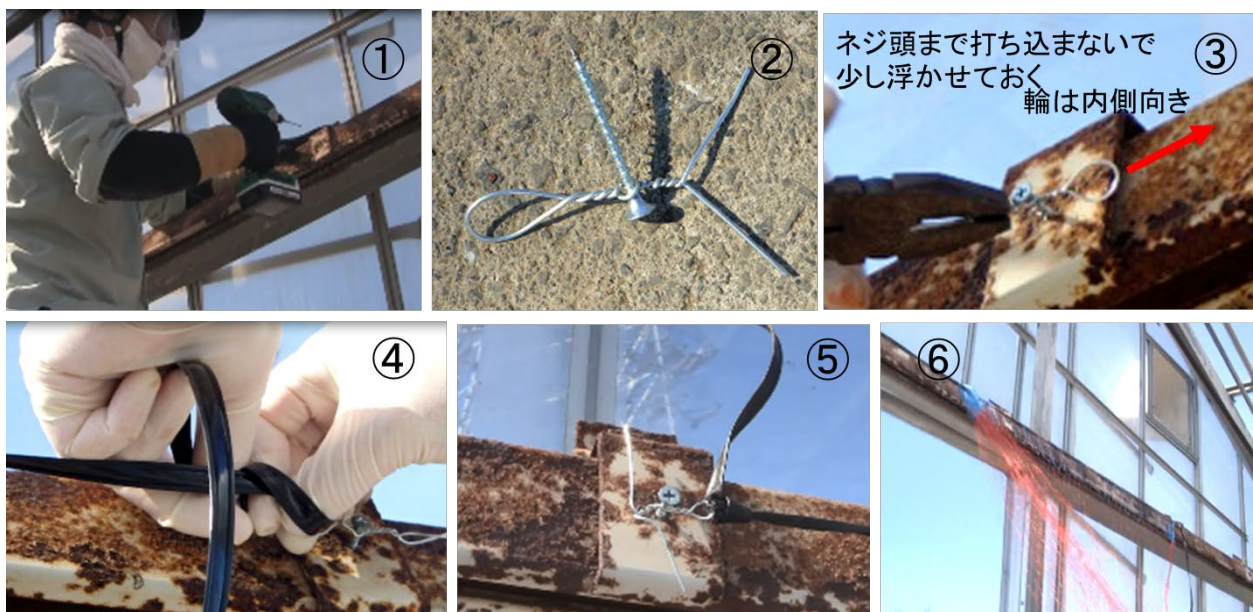
- ネットに同封されているひもは使用せず、ハウスバンドを使う (①)。
- 開封して縦方向に展開する (②③)。ネットの上下にハウスバンドを通す輪があり、輪はまとめてひもで結んである。このひもをほどく前に、必ず輪にハウスバンドを通すこと (④⑤)。上下で同様にする (下端は2. のあとでもよい)。上端の輪に通したハウスバンドがカーテンレールの役割を果たす。
- ハウスバンドの端は、抜けてしまわないようネットの端から3目程度を巻き込んで軽く結び、仮留めしておく (⑦)。このとき、ハウスバンドの端は長めに残しておくこと。
- 設置する間口に合わせて (それよりも長めに) ハウスバンドのもう片端を切る。
- 両開きにしない場合は、ネットを開閉しない側でハウスバンドをネットの3目程度巻き込んで2回結んでおく。



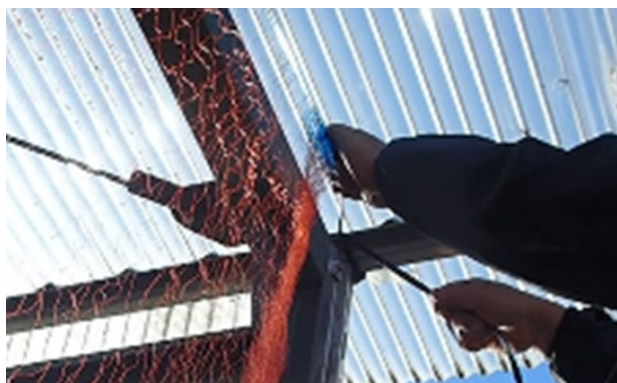
2. ネットを柱に固定する（基本的には開口部の内側）

- 作業前に決めた場所に、1. でネットに通したハウスバンドの両端をたるまないよう水平に結び付ける。ハウスバンドは構造物に密着せず、ネットが滑る程度の隙間があくよう構造物から浮いている必要がある。
- このとき、もともとある構造物に設置するのでなければ、ネットを固定する柱にねじを打つ等して結び付ける場所を作る (①)。ねじにはあらかじめ (②)、輪を作った針金を固定しておく (③、輪はハウスバンドと平行かつ内側に向くようにする)。ハウスバンドを直接柱に結んで固定する場合は、ネジ打ちは不要。左右の柱で同様にする。ハウスバンドは針金の輪に通して固定する (④、2回結べばしっかり締まる)。針金の輪の大きさを調整する等して、ハウスバンドがたるまず水平になるよう調整する (⑤⑥)。

【ねじを打つ場合】

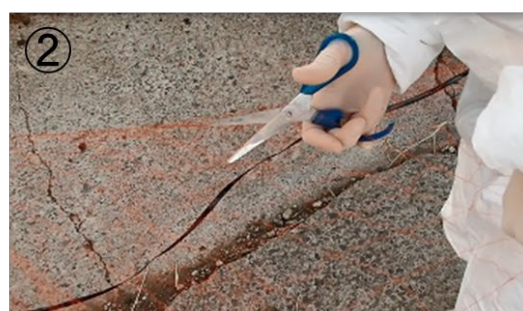


【柱等に直接結びつける場合】



3. ネットの下端を処理する

- ネットを横に展開する。
- ネットの下端（裾）の余った部分を、通しておいたハウスバンドを芯にして邪魔にならないようまとめ、PP ロープ等で数か所留めておく (①)。
- なお、ネットが縦に長すぎる場合は、1. ⑤でネットを横に展開する前に適当な長さで切断する。この場合、ネットの下端にはハウスバンドを縫うように通す (②)。ネットの下端は長めに残したほうが隙間ができにくい。
- ネットを開閉せず、四方を固定する場合は、各辺の数か所を PP ロープ等で柱等に留めればよいので、ハウスバンドを下端に通す必要はない。



4. 仕上げ

- ネットの左右端のうち、開閉しない側は柱にひも等で固定する。開閉する側は、長さのある支柱等にネットをひも等で結び付ける（結び付ける時は、ネットを多めに巻き込むとネットがちぎれにくくなる）。棒を取り付けることで、ネットが縦横に均等に広がりやすくなり、開閉しやすい (①)。
- ネットの横幅が大きく余る場合は、隙間ができないように広げて両端を重石でおさえてもよい (②)。

